

この豊穣、 みずみずしくしよ。

映画の大国・ジョージア（グルジア）の
伝説的女性の監督の到達点！

日本の“金継ぎ”に着想を得て。
ソ連からジョージアへ、激動の時代を生きた
女性監督ラナ・ゴゴベリゼが描く。

かつてグルジアと呼ばれたジョージアの首都、トビリシの旧市街の
片隅。作家のエレネは生まれた時から古い家で娘夫婦と暮らして
いる。今日は彼女の79歳の誕生日だが、家族の誰もが忘れていた。
その家に娘の姑のミランダが引っ越してくる。アルツハイマーの症状が
出始めたという。ミランダはソヴィエト時代、政府の高官だった。そこへ
かつての恋人アルチルから数十年ぶりに電話がかかってくる……。



Nana Djordjadze Guranda Gabunia Zura Kipshidze GOLDEN THREAD A film by Lana Gogoberidze



金の糸

日本・ジョージア国交樹立30周年記念



監督・脚本：ラナ・ゴゴベリゼ | 撮影：ゴガ・デヴダリアニ | 音楽：ギヤ・カンチュリ | 出演：ナナ・ジョルジャゼ

原題：OKROS DZAPI | 英語題：GOLDEN THREAD | 2019年 | ジョージア＝フランス | 91分 | 字幕：児島康宏

後援：在日ジョージア大使館 | 配給：ムウオラ moviola.jp/kinnoito

初日イベント | トークショー | 裏面へ
ジョージア・金継ぎ・神保町情報

2.26[土]より岩波ホールにてロードショー！

岩波ホールは本年7月29日をもって閉館となります。ご来場を心よりお待ちしております。

過去との和解の物語。
日本の「金継ぎ」に着想を得て描く

金の糸

ジョージア(グルジア)の

伝説的的女性監督が91歳にして、

成熟された時間を、深々と味わうような美しい映画です。幾重にも人々を引き裂いた歴史の破片を、今繋ぐもの。それは「生きることを愛する才能」という美酒でしょうか？

加藤登紀子 *歌手

暗黒の時代を経験し過酷な人生を送ったにも関わらず、ゴベリゼ監督の大きな優しさが滲み出て登場人物の一人一人を慈しみなながら描いてゆく。映画というものの力を、その美しさを全身に感じ幸せな時間になった。

吉行和子 *女優

気づいたら作品に引き込まれており、気づいたら終わっていた。しかし、確実な何かが残る。まるで人生のようだ。「金の糸」を通じてジョージアの人生観に是非触れていただきたい。

ティムラズ・レジャバ *駐日ジョージア大使

一組の夫婦の母親同士が高齢ゆえに同居することになるといふ展開はどこにでも起こりうるヒヤヒヤするような設定だが、その二人が芸術家と旧ソ連の残党、という桁違いの分断を大元としているのがすごい。二人のすれ違いからは、美しい映画のセットの外の「失われた時」の重苦しさを想像させられる。年老いた人が「かつて」の話しかできない自分を止められないことに、自らうらたえる描写はすごい迫力だ。

西川美和 *映画監督

家の中から一步も出られない主人公。だが、会話と思考によって、彼女の冒険は空間も時間も超えてどこまでも広がっていく。その無邪気な大胆さに何より魅了された。

月永理絵 *エディター&ライター

政治的立場、男女の思い、世代の隔絶。砕けたそれらをエレネは縫い直す。苦難の時代を生きた女性たちの頬に刻まれた皺は、金の糸だ。その皺がひどく羨ましくて、生きて、歳をとりたかった。

鈴木史 *映画監督・美術家・文筆家

心を澄ましてエレネの言葉を聞こう。限りある時を如何に生きるべきか。起きた出来事を憂うのか、それとも解釈を変えて好転させるのか。意識をどこにフォーカスするかで私達は過去さえ変えられる。

黒田雪子 *金継師

過去と過去をつなぎ合わせ時間も空間も超えた物語。監督自身の過去やジョージアの歴史も紡ぎ、祈りも込められている。この映画との関わり方もまた、人と人をつなぐ「金継ぎ」じゃないかと思う。

堀道広 *うろし漫画家/金継ぎ部主宰

激動のソ連時代を生き、人間と時代を見つめてきたゴベリゼ監督。その彼女が到達した金字塔。人生を洞察し、過ぎ去った歳月を問い、今をよりよく生きる。美しく、優しく、深い余韻をいつまでも心に残す。

はらだたけひで *画家・ジョージア映画祭主宰

(敬称略・順不同)

ジョージアをもっと知りたい方は

*在日ジョージア大使館
@GeorgiainJapan

ジョージア料理を食べてみたい方は

- *カフェロシア(吉祥寺)
<https://caferussia.web.fc2.com/>
- *スンガリー(新宿東口、新宿三丁目)
<http://www.sungari.jp/>
- *Soil(広尾)
<https://onl.la/3Vd1nAP>

金継ぎを体験してみたい方は

*金継ぎサイト「つぐつぐ」
<https://kintsugi-girl.com/>

映画の前後の神保町でのお楽しみは

*神保町応援マガジン「おさんぽ神保町」
<http://osanpo-jimbo.com/>

初日オンライン監督舞台挨拶
2.26[土] 13:00の回 & 15:30の回上映後

トピシ
より



監督・脚本: ラナ・ゴベリゼ(1928.10.13-)

母スツァ(1903-1966)は映画黎明期の女性監督。父は1937年にスターリンの大粛清により処刑され、母も極寒地の強制収容所に10年も流刑された。ラナのデビュー長編は1961年の『同じ空の下』。1978年の『インタビュー』はジョージア映画史の名作とされている。1986年の『転回』で東京国際映画祭最優秀監督賞。2019年、27年の沈黙を破って本作『金の糸』を発表。娘ソロメも映画監督である。現在93歳。トピシ在住。

毎週木曜13:00の回は豪華ゲストのトークあり!

- 3/3 [木] 加藤登紀子さん(歌手) [上映後]
- 3/10 [木] はらだたけひでさん(画家・ジョージア映画祭主宰) ①
- 3/17 [木] ティムラズ・レジャバさん(駐日ジョージア大使)
- 3/24 [木] はらだたけひでさん ②
- 3/31 [木] はらだたけひでさん ③
- 4/7 [木] 五月女颯さん(ジョージア文学・批評理論研究)
- 4/14 [木] 廣瀬陽子さん(慶應大学教授・コーカサス地域研究)

2.26[土]よりロードショー!

最新情報は
映画公式サイトへ



特別ご鑑賞券¥1,500(税込)好評発売中!

ローソクチケット Lコード: 35729

当日一般¥1,800 | シニア・学生¥1,500のところ ●岩波ホールでの販売は2/25(金)まで
*劇場窓口でお求めの方に「オリジナルポストカード」をプレゼント(限定数)

上映時間	自由席・定員制・整理券制・入替制!
連日	10:30 13:00 15:30 18:00

*新型コロナウイルスの感染状況により、上映時間やイベントを変更・中止する場合がございます。劇場HPやお電話で最新情報をご確認ください。

岩波ホール

03(3262)5252
www.iwanami-hall.com

●地下鉄(都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線)神保町駅A6出口すぐ上
●JR(中央線)水道橋駅または御茶ノ水駅・下車徒歩12分 ●神保町交差点角

—「ゴベリゼ家・女性監督の系譜」特集も上映—

「ジョージア映画祭2022 コーカサスからの風」開催中-2.25[金]まで 岩波ホール(全国巡回予定) georgiainfilmfes.jp